

Implant News No.6

(社)日本口腔インプラント学会会報

発行人 川添 堯彬 編集 (社)日本口腔インプラント学会広報委員会

事務局 〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 芝コトブキビル301

TEL. 03-5765-5510 FAX. 03-5765-5516

Eメールアドレス：jsoi@peace.ocn.ne.jp

【本号のトピックス】

認証医・専門医はじめ6つのインプラント専門資格 同時スタート、役員・委員会紹介、委員会から ほか

6つのインプラント専門資格がいよいよ同時スタート！

理事長 川添 堯彬

当学会の過去5年間の正会員数は、2003年4月4,750名、5,299名、5,813名、6,322名、6,879名と逐年的に増加の一途を辿ってきましたが、本年ついに7千名を超えて5月7,083名、6月7,270名となり、なおひと月平均200名前後の新入会員を記録しています。

これら会員の大方の要望には、インプラント治療に対する専門性を高めそれらを担保する専門資格を取得したい強い意思が存在すると思われます。そこで今期執行部のマニフェストの第一番に「口腔インプラント専門医制度および関連専門資格制度の確立・実施」を掲げて準備を進めてきました。そして本年度当初から以下の6つの専門資格を実施することになりました。

- 〈1〉 JSOI 口腔インプラント認証医
- 〈2〉 口腔インプラント専門医
- 〈3〉 口腔インプラント指導医
- 〈4〉 口腔インプラント基礎系指導医 (者)
- 〈5〉 インプラント専門歯科衛生士
- 〈6〉 インプラント専門歯科技工士

これらの新資格の骨子・資格条件については、本学会誌20巻1号巻頭言および会告に掲載してあります。またこれらの実施要項については同誌20巻2、3号会告およびホームページ(HP)に掲載されますので参照してください。

なお、今般の制度改正に伴い、従来の資格名称(認定医)および旧規則(認定医制度規程・同内規)については、新規則の「専門医制度規程・同施行細則」、「経過措置」に沿って移行できるように制定されており、具体的手順は「会告」および「HP」に掲載し、同時に該当する各認定医個人宛へは直接郵便にて通知いたします。

また、各専門資格の取得や更新に必要な単位・条件は本部および支部学術大会への出席・受講で得ることになりますので、それらの機会を逃さないように十分ご注意ください。

本学会のこれらの専門資格は、正会員それぞれの研修領域ごとにキャリアパスの階段を上がって研修・研鑽でき、究極に患者さんからの信頼確保が得られるように制定されています。

新 役 員 紹 介

以下の先生方が平成19年4月1日から平成21年3月31日の役員ですので紹介いたします。なお、()内は所属を示しています。

理事長

川添堯彬 (大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座)

常務理事 (5名)

伊東隆利 (九州インプラント研究会)

松沢耕介 (北海道形成歯科研究会)

山内六男 (朝日大学歯学部口腔機能修復学講座
歯科補綴学分野)

前田芳信 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座)

渡邊文彦 (日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター)

理事 (14名)

山上哲賢 (京都インプラント研究所)

添島義和 (九州インプラント研究会)

山根 進 (日本歯科先端技術研究所)

星野清興 (ユニバーサルインプラント研究所)

榎本紘昭 (新潟再生歯学研究会)

阿部成善 (九州インプラント研究会)

諏訪文彦 (大阪歯科大学解剖学講座)

相浦洲吉 (日本インプラント臨床研究会)

堀田康記 (愛知インプラントセンター)

木村博人 (弘前大学医学部歯科口腔外科講座)

赤川安正 (広島大学病院口腔維持修復歯科)

永原國典 (朝日大学歯学部口腔病態医療学講座)

加藤仁夫 (日本大学歯学部口腔顎顔面インプラント講座)

塩田 真 (東京医科歯科大学大学院インプラント学)

監事 (3名)

石野敏明 (ソニー株式会社)

長岡英一 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
口腔顎顔面補綴学分野)

井出吉信 (東京歯科大学解剖学講座)

平成 18 年度 名 誉 会 員 紹 介

以下の2名の先生が名誉会員になりましたので、ご略歴等をご紹介します。

湯浅保宏先生

職歴等

1936年3月3日生まれ

日本大学歯学部卒業

山口大学医学部歯科口腔外科学講座入局

北海道形成歯科研究会顧問

学会活動

第17回日本口腔インプラント学会総会学術大会会長

日本口腔インプラント学会常任理事

日本口腔インプラント学会副会長

第29回日本口腔インプラント学会総会学術大会会長

日本口腔インプラント学会終身指導医

日本口腔インプラント学会会則委員会委員長

日本口腔インプラント学会表彰委員会委員長

日本口腔インプラント学会学会特別賞

日本口腔インプラント学会平成16年度学会功労賞

(社)日本口腔インプラント学会理事

梅原正年先生

職歴等

1933年10月5日生まれ

東京歯科大学大学院歯科補綴学専攻終了

弘前大学口腔外科(皮膚科)講師

岩手医科大学補綴学教室講師
岩手医科大学口腔病理学教室講師
東京歯科大学歯科補綴学講師
弘前歯科医師会副会長
青森県社会保険診療報酬支払基金審査委員会委員

日本口腔インプラント学会専門医・指導医
日本口腔インプラント学会東北・北海道支部長
日本口腔インプラント学会用語委員会副委員長
日本口腔インプラント学会教育委員会副委員長
日本口腔インプラント学会表彰委員会委員長
(社)日本口腔インプラント学会平成17年度学会特別功労賞

学会活動

日本口腔インプラント学会常任理事

平成 18 年度表彰者紹介

学会特別功労賞受賞者

齋藤 毅先生が学会特別功労賞を受賞されたのでご略歴等をご紹介します。



齋藤 毅 先生

職歴等

1936年3月3日生まれ
日本大学歯学部卒業
日本大学大学院修了（歯学博士）
日本大学教授，同大学院教授（歯学部）
日本大学教授（総合科学研究所）
日本大学名誉教授

学会活動

日本口腔インプラント学会常任理事
日本口腔インプラント学会副会長
日本口腔インプラント学会用語委員会委員長
日本口腔インプラント学会特別功労賞受賞
日本口腔インプラント学会指導医

学会特別賞受賞者

畑 好昭先生が学会特別賞を受賞されたので、先生のご略歴等をご紹介します。



畑 好昭 先生

職歴等

1937年2月25日生まれ
日本歯科大学卒業
日本歯科大学歯科補綴学教室第2講座教授
日本歯科大学新潟歯学部副病院長
日本歯科大学新潟歯学部在宅歯科往診ケアチームチーフ
日本歯科大学新潟歯学部技工科科長
日本歯科大学大学院新潟歯学研究科科長
日本歯科大学名誉教授

学会活動

日本口腔インプラント学会理事
日本口腔インプラント学会認定医・指導医
第36回(社)日本口腔インプラント学会学術大会大会長

学会特別論文賞受賞者

伊東隆利先生が学会特別論文賞を受賞されましたのでご略歴等をご紹介します。



伊東隆利先生

職歴等

1942年7月30日生まれ
日本大学歯学部卒業
鹿児島大学大学院医学研究科（口腔外科）修了
（医学博士受領）
鹿児島大学医学部歯科口腔外科学講師
医療法人伊東会伊東歯科医院理事長
熊本市歯科医師会学術担当理事
熊本県歯科医師会常務理事，副会長
日本歯科医師会生涯研修セミナー講師
厚生労働省歯科医師臨床研修必修化に向けた体制整備に関する検討会委員
日本有床歯科施設協議会会長
日本口腔外科学会指導医
日本歯周病学会指導医
日本大学客員教授

学会活動

日本口腔インプラント学会常任理事
日本口腔インプラント学会専門医・指導医
日本口腔インプラント学会教育委員会委員長
（社）日本口腔インプラント学会常務理事

学会優秀論文賞受賞者



福田雅幸
秋田大学医学部
歯科口腔外科

本学会において、平成18年度優秀論文賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。この賞は、平成17年度は当科の前任の宮本洋二教授（現在は徳島大学教授）が受賞しましたので、当科は2年連続の受賞となりました。宮本教授の勤勉な姿勢と御指導の賜物であり、この場をお借りして深謝いたします。

私が歯科インプラントに興味を抱いたのは、卒後数年経過した1990年代前半でした。当時従事していた東北大学歯学部口腔外科学第二講座の元教授の手島貞一先生の指示で、インプラントの講習会を代理で受講したのがきっかけでした。それ以前から、兼業先ではフィクスチャーの埋入を行っていましたが、当時の口腔外科臨床では、インプラントの除去例がたくさんあったため、葛藤の中でインプラント治療を行っていました。しかし、現在は、論文でお示したように、顎切除後の咬合再建にはなくてはならない治療法であると認識しています。

再生医療の分野では、歯の再生が試みられていますが、失った歯を何らかの方法で補おうとする発想は、インプラントが原点です。名誉あるこの賞をいただき、私も原点に戻ってインプラント臨床を見直し、日々努力していくつもりです。



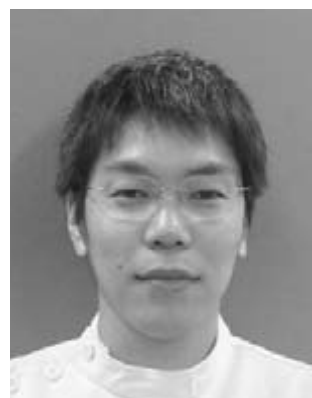
苧坂 通
おさか歯科クリニック

去る平成 18 年 9 月 16 日、新潟学術総会において私の論文が日本口腔インプラント学会優秀論文賞に選ばれ表彰を受け、ありがたい賛美の声を多くの方々から頂いた際に、日本語で内容を知りたいという声を少なからず頂いたため、今回はその要旨を述べたい。テーマは再生医療。

ヒト骨髄由来未分化幹細胞の骨芽細胞への分化に応答する IGF-II, IGFBP-2 遺伝子発現。インシュリン様増殖因子 (IGF-II) とインシュリン様増殖因子結合タンパク質-2 (IGFBP-2) は、その共同作用で骨ミネラル密度を増大させ、骨粗しょう症の改善に有用であることが知られている。一方、前骨芽細胞への低出力レーザー照射は、骨芽細胞の分化促進を介して、骨形成を促進するといわれている。しかしながら、低出力レーザー照射による IGF-II, IGFBP-2 遺伝子の発現に与える影響については不明な点が多い。近年、再生医療に向けて体性幹細胞の研究が進んでおりとくに骨組織の再生については、ヒト骨髄由来間葉系幹細胞 (hMSC) を骨誘導培地で培養することによって骨芽細胞への分化を促進することができるとの報告がある。しかしこの分化促進の機序についても不明な点が多く、骨芽細胞の分化過程における遺伝子発現の動態を明らかにすることは今後の再生医療の臨床応用に貢献を果たせる意味で期待されている。よって今回 IGF-II と IGFBP-2 に注目し、骨芽細胞様株への低出力レーザー照射および hMSC の骨芽細胞への分化における IGF-II と IGFBP-2 の遺伝子発現の変動について解明を試みた。結果、IGF-II と IGFBP-2 の遺伝子発現が低出力レーザー照射によって増大すること、hMSC の骨芽細胞への分化過程で増大することがあきらかとなった。これらのことから低出力レーザー照射による骨形成の促進および前骨芽細胞

の分化、骨形成の促進に、IGF-II と IGFBP-2 の遺伝子発現が関与することが示唆されたことから、これらのことは、今後の骨組織の再生医学に貢献することが大であると考えられる。今後の臨床応用に期待したい。

学会奨励論文賞受賞者



内田圭一郎
昭和大学歯学部高齢者歯科学教室

この度は、平成 18 年度学会奨励論文賞の栄に浴し心から感謝申し上げます。ありがとうございました。これまでの研究成果をこのように高く評価していただきましたことを大変光栄に存じます。

臨床では、下顎補綴処置の手法としてインプラントオーバーデンチャー (以下 IOD) がすでに広く認知されております。近年になり、海外では IOD の治療効果に関する報告が散見されるようになってきましたが、本邦では未だに少数です。その原因として、インプラント治療ではランダム化比較試験のような研究手法は、倫理的な観点から実施することが困難であること、チェアサイドにおける治療効果の測定に時間がかかることなどが挙げられるのではないのでしょうか。

そこで本研究は、治療効果を短時間で簡便に測定することが可能な各種機能評価表を使用しました。さらに、マッチングテストを用いて IOD の治療効果を通法の全部床義歯と比較しました。結果として、IOD の治療効果を定量的に測定することが可能となっただけではなく、マッチングテストの有用性を検証することもできました。

今後も、インプラント治療の質の向上に寄与できるような研究を推進したいと考えております。最後に、本研究の機会を与えて下さり、終始ご懇篤な指導と校閲を賜りました昭和大学高齢者歯科学教室の佐藤裕二教授、北川昇准教授をはじめ、

多くの助言を賜りました金 修澤講師および共同研究者の先生方に厚く御礼申し上げます。



宗像源博
山梨大学医学部附属病院
歯科口腔外科

この度平成 18 年度日本口腔インプラント学会奨励論文賞を受賞させて頂きまことに光栄であり、感謝しております。

私は、大学を卒業して直ぐに東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント治療部に入局したので、一般臨床の基礎からインプラント外科そして補綴にいたるまで金子隆二先生、平健人先生、長尾浩史先生、岡田常司先生をはじめとする諸先輩方々と立川敬子講師、塩田真助教授よりご指導を賜りました。臨床経験を重ねインプラントに対する知識と理解が深まるにつれ、術前とくに画像診断の重要性を考えるようになったことが私が研究をはじめのきっかけとなりました。

研究をはじめた当初は、当時歯科放射線の講師であった誉田栄一先生にご指導を賜りながら QCT 法による骨密度測定による術前診断について研究を行い本学会にて報告を行ってまいりました。そしてインプラント治療に共鳴振動周波数が導入され、即時荷重やオッセオインテグレーションの基準として臨床に汎用されてきてから、その測定の意義について疑問を感じ本研究をはじめにいたしました。その結果、即時荷重においては皮質骨の厚さより骨密度が重要であること、オッセオインテグレーションの基準にするためには経時的な測定が必要であること、海綿骨の状態は共鳴振動周波数には反映されないことが明らかになりました。インプラント業界は自費診療であることもあり、業者主体の海外研究や商品先行の傾向があり、しっかりとした EBM を持たない治療が普及していることも事実であり、また、国内での

研究は一步遅れていると思われる部分も少なくありません。今回、受賞させていただいたことを契機に今後も臨床および研究に邁進していきたいと考えております。

優秀研究発表賞受賞者



谷川令奈
九州歯科大学
口腔再建リハビリテーション学分野

この度、平成 18 年度優秀研究発表賞を受賞させて頂き、大変光栄に思い、心より感謝を申し上げます。

また、ご選考いただいた諸先生方には改めて深謝いたします。本研究は、産業医科大学第一内科学講座の田中良哉教授との共同研究であり、何も知らないところから育ててくださった田中良哉教授、また産業医科大学第一内科学講座のスタッフの先生方にも心から感謝いたしております。本研究はレクチンファミリーの中の 1 つであるガレクチン 9 が細胞膜表面上のリピッドラフトをクロスリンクすることから、骨芽細胞の増殖、分化を促進させることがわかり、細胞膜の人為的制御、という観点から新規骨形成薬の可能性が示唆された、という研究でした (Journal of Bone and Mineral Research in press)。この研究が少しでもインプラント希望の患者様のお役にたてればと感じております。現在も産業医科大学の第一内科学講座と共同研究を続けており、今は炎症の制御という観点からモデルマウスを使い *in vivo*、*in vitro* の両面からアプローチしております。わたくしのような若輩者がこのような栄えある賞を受賞できたのも、九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野の細川隆司教授のサイエンティフィックなアドバイスや諸先輩方の細やかなご指導、そして何よりも大きな支えとなった同期生の竹中めぐみ先生のフォローがあって、初めて心置きな

く産業医科大学 第一内科学講座での研究に集中できたのではないかと思います。最後になりましたが、様々なところで大変お世話になりました九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野の医局秘書の白石みわさんと、産業医科大学 第一内科学講座のテクニカルアシスタントで、色々一から教えてくださった足立智子さんに深謝いたします。



野澤 健
新潟再生歯学研究会

この度第 35 回日本口腔インプラント学会学術大会優秀研究発表賞をいただき光栄に存じます。受賞した研究は、新潟再生歯学研究会の多くの先生方からの協力の賜物と感謝しております。特に榎本紘昭施設長からは、丁寧な御指導と多くの長期経過症例を提供していただきデータをまとめることができました。今回の研究の礎になったものは日本大学歯学部歯周病学教室に在籍中、現主任教授伊藤公一先生のもとで根面被覆をはじめとする歯周形成外科手術に興味を持ったことが始まりでした。その後榎本先生からインプラント治療を学ぶ機会に恵まれ、新潟再生歯学研究会の立ち上げにも参加することが出来ました。その間インプラント治療は咬合支持確立の予知性の高い方法として認知され、最近では天然歯と同様の審美性が求められてきました。しかしながら薄い歯槽粘膜では術後に退縮が見られることから、日本人では欧米の研究データをそのまま受け入れることは難しいと感じていました。そこで Wennstrom 教授の遊離歯肉の高さと幅の比率 1.5 : 1 の仮説をインプラントにも応用できないかと考え、鶴巻春三氏考案のテレスコープに維持を持たせた歯科用軟膏による仮着法「マスターズ方式」を用いることにより、模型上でインプラント頬側縁上粘膜の高

さと幅を測定しました。そこで導きだされた結果として長期的に安定した粘膜の高さと幅の比率の平均は、およそ 1 : 1.5 であり「インプラント頬側縁上粘膜の高さと幅の生物学的比率」と名づけました。現在この結果をもとにインプラント周囲軟組織のマネージメントに関してさらなる検討を重ねていきたいと考えています。

デンツプライ賞受賞者



笹尾道昭
笹尾歯科医院

このたびは第 36 回日本口腔インプラント学会において、栄誉あるデンツプライ賞を受賞し、たいへん光栄に感じております。

今回受賞の対象となりましたポスター発表は、三次元有限要素法を臨床に応用するというものでした。この手法は、ご承知のように力学的シミュレーションの一つで、実測では得ることができない硬組織中の応力分布を、コンピュータ上で実現するものです。実際には三次元エックス線 CT を用いますが、対象に破壊的・侵襲的な影響を与えずに力学的解析ができます。

工業的には珍しい手法ではなく、これがなければ、スペースシャトルも飛ばないそうです。この手法を歯科医療に応用することで、エビデンスのある臨床施術を行うことができると考え、研究してきたものです。具体的にいえば、少なくとも口蓋側への傾斜埋入を評価できたのではないかと感じています。

私は、日常の臨床以外に、日本大学歯学部歯科理工学教室の兼任講師として、週に一度、大学での実習で学生とともに学んでおります。歯科理工学は基礎系の学問ですが、基礎にも先達が蓄積してきたエビデンスがあり、それに立脚して新しい材料、手法、分析法を見いだしていくのが、これ

からも続く私の研究の目標といえます。

日々の臨床と研究のなか痛感するのは、臨床を科学することの重要性であり、私のような臨床家と大学基礎教室との連携のたいせつさです。

今回の受賞は、指導くださった先生方をはじめ多くの方々に支えられて叶ったものであり、そうした方々への感謝の念に堪えません。



井原郁夫
東京歯科大学歯内療法学
講座

新潟コンベンションセンターにて開催された第36回日本口腔インプラント学会総会学術大会（平成18年9月15（金）～17（日）日）において発表した「インプラントに近接した根尖病変の処置と文献的考察」に対して高い評価を頂くとともに、デンツプライ賞を受賞することができました。

本発表の内容はインプラント手術時の偶発症としての implant periapical lesion (IPL) について症例報告するとともに文献展望を行ったもので

す。IPL (Implant Periapical Lesion) は骨火傷・インプラントの感染・隣在歯の根尖性歯周炎によるインプラント部の骨吸収に伴う病態の総称として報告されています。その原因としてはインプラント植立時のオーバーヒート・植立後の過負荷・既存の感染（歯根片の残存・骨内の異物・上顎洞などのインプラント植立部位の汚染）などがあげられています。一方、IPLの診断としてフィクスチャー周囲歯肉の腫張・発赤・出血などの化膿性炎、当該部歯肉粘膜における瘻孔形成、プロービングデプスの増加、インプラント部の骨透過像、歯槽骨の吸収などの所見を総合して診断するとされています。この症例では、歯内療法疾患により引き起こされた上顎左側側切歯根尖部1/3におけるIPLの診断および、治療経過について関連の文献とともに考察しました。また、根尖部における病態とフィクスチャーの位置関係を知る目的で歯科用コーンビームCTを撮影し精査しました。

本例では感染根管治療の結果インプラント体近心部1/2を含む透過像を認めた症例に対し、臨床症状および骨透過像の改善をみることができました。しかしながら、根尖部における病変とインプラント体の接触界面における感染は否定できないためさらなる経過を観察し、治癒の方向性を確認する必要がある、と結んでいます。

共同演者は歯内療法学講座 中川寛一教授、歯科放射線学講座 佐野司教授、歯科口腔インプラント科 矢島安朝教授、歯内療法学講座 山田雅司大学院生。

第28回(社)日本口腔インプラント学会 中部支部総会・学術大会案内

開催日：平成19年10月28日（日）

会場：三重県歯科医師会館2F

大会長：中村伸也

実行委員長：中嶋昭雄 副実行委員長 林 尚史

内容：専門医教育講演「インプラント審美の視点から」榎本紘昭先生（新潟再生歯学研究所）
特別講演「インプラント手術と鼻副鼻腔病変—耳鼻咽喉科医の視点から—」國弘幸伸先生（慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科准教授）
一般口演、専門歯科衛生士教育講演、専門歯科技工士教育講演、市民公開講座

詳細は(社)日本口腔インプラント学会中部支部ホームページ <http://www.jsoi-chubu.org> を御覧下さい。

大会事務局：伊藤歯科 伊藤幸司

三重県伊勢市船江1-5-60

TEL：0596-29-2020 FAX：0596-29-2029 E-mail：ito-dent@khaki.plala.or.jp

委員会から

日本補綴歯科学会との共催シンポジウム
「インプラントの咬合：わかっていること、
いないこと」について

学術委員会委員長 前田芳信

本年5月20日（日）に日本補綴歯科学会よりの要請によって、表記シンポジウムを第117回の日本補綴歯科学会学術大会において本学会との共催の形で開催した。

シンポジストとしては日本補綴歯科学会から中村公雄氏（補綴学会関西支部）、永田省蔵氏（補綴学会九州支部）、ならびに日本口腔インプラント学会からは松下恭之氏（九州支部）、細川隆司氏（九州支部）が登壇し、座長は武田孝之氏（関東甲信越支部）、前田芳信（大阪大学：近畿北陸支部）が担当した。

欠損補綴領域におけるインプラントの利用の拡大には目を見張るものがある。またオッセオインテグレーションタイプのインプラントがわが国に導入されてから20年を超えようとしている現在、多くの長期症例も多数報告されるようになってきている。この間「インプラントの咬合」については様々な考え方が提案、報告されてきてはいるものの明確な科学的根拠に基づいたものは少なく、いまだに数多くの臨床的な疑問点が残されている。その例をあげるとするならば、

- ・天然歯および義歯の咬合と異なるものは何か
- ・インプラントと天然歯の咬合接触の強さを変える必要があるか
- ・インプラントに犬歯誘導を与えることができるのか？
- ・重篤な歯周疾患を伴う歯列での補綴の場合と何が異なるか
- ・咬頭嵌合位で天然歯と同様の咬合接触を与えると何が起きるのか
- ・頭嵌合位で接触させないと何が起きるのか犬歯誘導とすることが望ましいのか
- ・欠損の位置、数とインプラントの配置によって咬合付与に差をつけるのか
- ・力による問題はいつ、どこに、どのように起き

るのか

・パラファンクションのある症例に対する対応策はシンポジウムの前半では「長期症例からの問題点の提起と文献的なエビデンスの考察」を行い、後半では「臨床的な対応策」として具体的にどのような対処しているかを取りあげた。

最終的にシンポジウムのまとめとして

- ・インプラント補綴の前に歯列の健全化をはかるべきである。
 - ・従来の補綴の基本（特に適合、清掃性）を確立すべきである。
 - ・インプラントと天然歯の咬合は差をつけて考える必要はない。むしろ全顎的なバランスを考えた咬合接触を与えるべきである。
 - ・過大な咬合力が生じる可能性を常に考えて診断、設計する必要がある。
 - ・インプラントに対合する天然歯に注意すべきである。
 - ・最後方の咬合部位に大きな負荷がかかることに注意すべきである。
 - ・プロビジョナルレストレーションを用いて咬合の適切さ、パラファンクションを確認すべきである。
 - ・パラファンクションに対応するには、ナイトガードの使用と咬合面材料の選択に配慮すべきである。
 - ・メンテナンス時にも咬合のチェックは必須である。
 - ・経年的変化がどこに出てくるかをよく観察する必要がある（磨耗、疲労）。
 - ・今後さらに咬合に関するエビデンスを蓄積すべきである。
- ことが提言された。

日本口腔インプラント学会としても、関連学会と協力して、より長期的に安定したインプラント治療が提供できるようなガイドラインづくりを考えなければならない時期に来ているようである。

学会運営の変更について

学術委員会委員長 前田芳信

本学会ではメインテーマを決めて学術大会を開催することをすすめてきました。各大会それぞれサブテーマのもとに、大会独自のプログラムを構成していただけてきました。しかしながら、

- 1) 法人化後の学会員数の増加にともない、参加者数が増加し、会場の確保、ならびに大会の運営に多大な労力と費用を要するようになったこと
- 2) 演題数の増加にともない、その内容を本学会にふさわしいものとするためのプログラム委員会の仕事量の飛躍的に増大していること
- 3) 参加された方が学会にスムーズに参加し、あるいは発表していただくためには、より迅速な対応が必要になること

などの点を考慮しますと、今後の学会の開催については各支部に全てお任せする方式には限界があると考えられます。

そこでこれまでの大会運営の良さを残しながら、第38回の東京での学術大会からは学会がより開催に関与した形での運営を進めてみたいと思っています。

それにともない

- 1) 学会参加、演題の登録は学会のホームページから行えるようにする
 - 2) 抄録は学会誌の特別号とするとともに、事前にホームページからもダウンロードできるようにする
 - 3) 学会での発表履歴が検索できるようにする
など、より簡便かつ分かりやすい形にすることを計画し、段階的に実施する予定となっています。
- なお、それとともに抄録ならびに学会での発表内容についても、名実ともに歯科を代表する学会のひとつとして恥ずかしくないものとするための努力をつづけてゆきたいと思っております。

しかしなんといっても、会員の皆様のご協力なしではさらに良い学会とすることはできません。どうか、今後とも積極的な参加とご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

「インプラント専門歯科衛生士」制度のスタート

専門歯科衛生士委員会委員長 添島義和

(社)日本口腔インプラント学会は、口腔インプラント専門医制度を発足し、更にインプラント治療の向上を目指しております。

しかし、インプラント治療はチーム医療であり、施術者はもとよりそれを支えるパラ・デンタルスタッフの質が治療の予後を大きく左右するのです。すなわち、専門医には治療に精通し、メンテナンスのできる歯科衛生士の協力により、質の高いインプラント治療を提供できるのです。レベルの高い歯科衛生士は患者さんの信頼を得るとの重要な意味を持ち、一般の歯科衛生士と区別されることは当然なことなのです。

4月からスタートしました「インプラント専門歯科衛生士」制度は、歯科衛生士の口腔インプラントに対する専門的知識と技術を確保し、インプラント学の実践及び向上を図り、国民の口腔の健康増進に貢献するものと考えております。

平成22年3月31日までは本制度の発足に伴う暫定期間とし書類審査のみで、ケースプレゼンテーション並びに口述試験が免除されています。

申請に必要なものは、

1. 日本国歯科衛生士の免許証を有すること
2. 本会会員であること
3. 3年以上インプラント治療に携わっていること
4. 本会学術大会及び併催の支部学術大会に各1回以上参加していること
5. インプラント専門歯科衛生士教育講座を1回以上受講していること
6. 上部構造装着後2年以上経過した症例のインプラント治療介助又はメンテナンスを行った経験が3症例以上あること
7. 口腔インプラント専門医又は認定医1名の推薦があること

以上の7項目を満たして頂ければ書類審査のみで資格を得ることが可能になっております。

申請の募集については学会誌20巻2号の会告をご覧ください。

平成 18 年度収支計算書について

財務委員会委員長 山根 進

平成 18 年度収支計算書はさる 6 月 17 日(日)の総会にて監事による監査報告後承認されましたが、その概要について述べたいと思います。

- ① 18 年度から、一社団法人に一会計の原則に基づいて本部と支部を合算した収支計算書です。
- ② 18 年度の収支決算は 1,337,155 円の黒字です。
- ③ 事業収入として、18 年度から大会参加登録費、広告等の収入が新たな科目の学術大会運営事業収入に計上されることになりました。その決算額は 60,781,045 円であり、内訳は新潟年次大会が 36,690,791 円、6 支部大会が 24,090,254 円です。
- ④ 補助金等収入であります。例年どおりの日本歯科医学会助成金(2,114,000 円)以外に、新潟年次大会への助成金が 9,172,845 円ありました。その内訳は新潟県から 7,000,000 円、新潟観光コンベンション協会から 1,872,845 円、新潟県歯科医師会から 300,000 円です。
- ⑤ 事業費の中に、本部および支部学術大会の費用を組み入れる科目として学術大会事業費を新設しました。決算額は 74,991,742 円であり、内訳は新潟年次大会が 45,863,636 円、6 支部大会では 29,128,106 円です。
- ⑥ ホームページ運営事業費が予算額 500,000 円から 3,155,925 円へと増加しておりますが、これはインターネットで年次大会登録、演題登録、宿泊申し込み等を行うための学術大会 WEB システム作成費が組み込まれています。
- ⑦ 管理費の中の事務用品・印刷費が 4,277,244 円と増加しておりますが、その内訳は本部 2,185,507 円、6 支部 2,091,737 円です。
- ⑧ 業務委託費が予算にたいして 5,449,257 円と増加していますが、これには東京コンピューターシステムの会員管理システム技術サポートが含まれています。
- ⑨ 保証金として 82,650 円が支出されておりますが、

これは差入保証金であり、(本部)郵便料金後納差入保証金です。

- ⑩ 次期繰越収支差額は 38,401,284 円であり、前期より 1,337,155 円増加であります。
- ⑪ 貸借対照表において、新たな会計基準に従い、前年度の科目に賞与引当金、退職給付引当金が追加されています。賞与引当金は 521,250 円計上されていますが、次年度の 6 月に支払われる賞与の 1,2,3 月分であり、賞与の半分が計上されます。また、1,764,060 円の退職給付引当金は職員全員が 3 月 31 日に辞めた場合に支給される退職金の合計であります。したがって、負債合計は他の流動負債を加えて 2,938,801 円と増え、正味財産合計は前年度正味財産合計より 865,505 円減少になります。
- ⑫ 財産目録の流動資産の内、現金預金において、本部以外は 6 支部繰越金の合計 18,288,025 円であります。
- ⑬ 固定資産は基本財産の 30,000,000 円(定期預金)と差入保証金 941,110 円であり、資産合計は 69,995,885 円であります。
- ⑭ 流動負債として未払金、前受金、預り金、賞与引当金の合計 1,174,741 円あり、また固定負債として退職給付引当金 1,764,060 円があり、負債合計は 2,938,801 円であります。
- ⑮ 正味財産は
 $69,995,885 - 2,938,801 = 67,057,084$ 円
 であります。しかし、基本財産、6 支部繰越金は勝手に使うことはできませんので、本部が自由に使える金額は約 20,000,000 円であり、綱渡り状態が続いております。本部の一層の節約を望みたいところです。

支部財務担当の先生へのお願い

いつも会務ではいろいろお世話になり、感謝しております。支部においては必ず、出納帳を記載していただき、領収書を保管しておいてください。また講師への謝礼からは必ず 10%の源泉徴収(外国人は 20%)してください。本部への支部収支計算報告は支部収支決算書フォーマットに記載の上、支部事業報告書、残高証明書を添えて、提出をお願いしたいと思います。

論文種別分類の定義と書式を明確化

編集委員長 諏訪文彦

7千人以上の会員を擁する学会になり、投稿論文の内容も多様化してきております。現在の学会誌で行っている論文種別の分類を見直し、6つの項目に分類することになりました。さらに、論文投稿をしていただきやすくするため、それぞれの定義と書式を明確にしております。平成19年3月25日(日)の理事会において、論文種別について、下記のように改定されることが決定されました。それに伴い投稿規程も一部変更になります。改定された規程に関しては、日本口腔インプラント学会誌および学会ホームページにご報告させていただきます。

1. 総説・論説

編集委員が依頼することを条件に、著者自身の研究を中心として、その分野全般にわたる最近の進歩と背景を広い視野から総合的に解説したものの。

書式：著者一任とするが、日本口腔インプラント学会誌にふさわしいもの

2. 原著

研究の新規性(独自性)が高く、客観的な結論が得られるもの。

書式：英文抄録、緒言、材料および方法、結果、考察、結論、文献

3. 臨床研究

臨床から導かれた独自性の高い研究で、客観的な結論が得られるもの。原則として10症例

以上の症例数をまとめたものが望ましい。

書式：英文抄録、緒言、材料および方法、結果、考察、結論、文献

4. 症例報告

臨床で定説になっている診断法・治療法・治療術式の修正等についての提言、珍しい症例、予期せぬ合併症、予期せぬ展開を見せた症例についての報告。

書式：英文抄録、緒言、症例の概要、考察、結論、文献

5. 調査・統計

新しい装置・技術の開発や使用経験などに関するもの。または、調査結果などを整理した内容で、独自性が強いもの。

書式：英文抄録、緒言、調査・統計の概要、結果、考察、結論、文献

6. 資料

調査・統計に準じた内容で、インプラントに必要な情報が提示されているもの。

書式：英文抄録、緒言、材料および方法、結果、考察および結論、文献

そのほかに、ケースプレゼンテーション論文などを含む。

専門医、指導医、JOSI 認証医の申請方法

専門医、指導医、JOSI 認証医の申請方法については、本学会ホームページに会告が掲載されていますので、よくお読みください。また、申請書類は、ホームページからダウンロードできます。

認定委員会委員長 松澤耕介

年次学術大会案内

第37回(社)日本口腔インプラント学会・学術大会

大会長 添島義和

本学術大会は「専門性あるインプラント治療」をメインテーマに今年9月14日(金)～9月16日(日)の会期で、熊本市において開催され

ます。安全性、長期性、先進性、専門性で世界をリードする3名の講師が最新のトピックを示される特別講演、国際セッションでは各国を代表する講師が揃いました。7題のシンポジウムではそれぞれ専門性を高めるためのガイドラインが示されます。新しいプログラムとして「インプラント基礎研究者の集い」および「歯科放射線学会意見交換会の集い」の公開講座は、今後更に口腔イン

プラントの発展のために基礎および臨床系学会との連携の場として設けました。

現在の演題数は、国内外から318題とケースプレゼンテーション165題と多数の応募となりました。その他専門医制度にふさわしい教育講座など新しいテーマやトピックスが満載しています。企業展示およびランチョンセミナーは各社が独自に工夫した内容を提供いたします。歯科技工士セッションは咬合のコンセプトと審美を重点項目としてCAD-CAMシステム各社のテーブルクリニックで情報が得られます。

歯科衛生士セッションは安全な治療のガイドラインと確実なメンテナンスケアに焦点をあわせました。市民公開講座は話題豊富な講師陣による健康長寿とアンチエイジングのテーマで市民が楽しめる企画といたしました。

築城400年祭が行われている熊本城に隣接する学会場には是非お出かけ下さい。

第38回 (社)日本口腔 インプラント学会・学術大会

大会長 相浦洲吉

第38回の学術大会は、従来からの順序では関東・甲信越支部の当番ではありませんが、学術大会のありようを考えてみるということで第36回に続いて関東・甲信越支部で主幹することになりました。

(社)日本口腔インプラント学会は、指導医・認証医・専門医制度、専門歯科衛生士・専門歯科技工士制度を施行あるいは整えて、わが国の口腔インプラント学および治療に大きなうねりを創り、社会的に信頼されるように努めています。

信頼を得るためには、われわれ歯科医側は「どうすべきか、どう在るべきか」を、この第38回学術大会において、考えを深め、議論を深めていきたいと考えています。また「社会的」とありますように「市民公開シンポジウム」等の企画を考えています。

関東・甲信越支部の全会員で、皆様方から良い学術大会であったと言って頂けるような大会を準備していこうと思っています。

是非、多くの参加をお願いいたします。

メインテーマ：“診療ガイドラインをそなえたインプラント治療”

場所：東京国際フォーラム

日程：2008年9月12(金)～14日(日)

支部便り

第26回 (社)日本口腔インプラント学会 中国・四国支部総会・学術大会報告

大会長 田中 悟 (中国・四国支部副支部長)

平成19年2月16・17日の二日間にわたって当支部総会・学術大会を山口県歯科医師会館において開催しました。山口県における開催は9年ぶりでしたが前回開催の時と比較すると、学会会員の参加数の増加はもちろん非会員の先生方の参加が目立ち、インプラント治療に対する関心の高さが伺われました。また市民公開講座においては、一般市民の皆様の多数の参加を頂いて患者さんのインプラント治療へのニーズが高まっていることが感じられ、公開講座終了後には治療に関する質

問が続出して急遽質問コーナーを設置して対応しました。主なプログラムの内容は下記の通りです。

1. 認定医更新用教育講座：「即時インプラントの最新術式と臨床エビデンス」九州歯科大学口腔再建リハビリテーション学分野教授 細川隆司先生
2. シンポジウム「歯科用X線CTは、インプラント治療をどのようにかえるか」[口腔画像診断専門医の立場から]九州大学歯学部口腔画像情報科学教授 吉浦一紀先生、[臨床医の立場から]福岡県古賀市開業 竹下文隆先生
3. 市民公開講座：「アンチエイジングの中でのインプラント治療」(社)日本口腔インプラント学会中国・四国支部支部長 山根 進先生
4. 一般講演：9題

指定研修施設紹介

朝日大学歯学部附属病院口腔インプラント科

施設長 永原國央

朝日大学歯学部附属病院口腔インプラント科は、1999年12月1日に開設されました。それまでの歯科インプラント治療は、歯科補綴科、口腔外科、歯周病科、歯科放射線科がチーム医療として行っておりましたが、十分な患者サイドからの要求に応えることができず、症例数も年間数例に止まっていました。しかし、年々歯科インプラント治療を希望し来院される患者様の増加に伴い、学部を中心とし附属病院への歯科インプラント治療の専門診療科設立が要望されたのです。

病院長を中心とし、診療科長として当時口腔外科におりました私が指名を受け、患者様主体の診療体系、責任の所在をはっきりとし、朝日大学歯学部附属病院での歯科インプラント治療の充実を図ることを目的として口腔インプラント科が開設されました。

スタート当初、教授1、助手（助教）1という定員で、まったく人手不足の状態でした。そのため、歯科補綴科、歯周病科の先生方の協力を得ながら診療を行っておりました。今年度は、教授1、講師1、助教1となり、初診患者数も初年度から順調に推移し、去年は初診患者数234人（内、治療開始患者数102人）、埋入インプラント体本数256本でありました。

現在の口腔インプラント科では、附属病院はもとよりPDI歯科診療所、村上記念病院を含む3施設での歯科インプラント治療を総括する役割を担い、毎月1回の症例検討会、勉強会を行い研鑽しています。



また、朝日大学歯学部では、姉妹校の明海大学歯学部との共同にて生涯研修事業を行っており、年間約30の研修コースを運営しております（コースの詳細は生涯研修部ホームページ <http://www.m-a-univ-ce.com> にて紹介しております）。その中で、口腔インプラント科は1年間の『歯科インプラント治療 実習コース』を企画・運営しており、年間10～18名の受講生を受け入れております。このコースは、『初心者（卒後約5年経過し開業している歯科医師）』から『以前インプラント治療をやっていたがしばらくやっておらず、新しいシステムを導入して始めたい』、また、『インプラント治療をやっているがなかなか納得がいかず、行き詰まっている』といった先生方に受講して頂き、最新の知識・技術を習得して頂くものです。コース終了後、受講者の先生方とは連携をとり、歯科インプラント治療の地域での発展に協力させて頂いております。

学部の教育においては、4学年にインプラント学・インプラント学実習を開講しており、これを朝日大学歯学部口腔病態医療学講座インプラント学分野として担当しております。時間数は、講義30時間、実習30時間というもので、充実した時間数を利用し、歯科インプラント治療の歴史から始まり、インプラント体周囲での病理学・骨接合の概念、歯科インプラント治療における口腔内診査・咬合診査・全身診査、診断用ワックスアップ・診断用ステント、一次・二次手術、上部構造物、メンテナンスといった講義を行い、診断用ワックスアップ、診断用ステント作成、インプラント体の埋入、印象採得、作業用模型作製といった実習を行っています。学生の反応は上々で、歯科インプラント治療の重要性を理解しその習得に興味を持って取り組んでもらっています。

これから（社）日本口腔インプラント学会研修施設の朝日大学歯学部附属病院口腔インプラント科として臨床はもちろんのこと、日本の歯科大学での卒後教育、学部教育の中軸として、その経験をもとに会員の皆様にお役に立つよう努力することが重要であると考えております。今後とも、よろしく御指導・御鞭撻お願い申し上げます。

日本歯科大学付属病院 インプラント診療センター

施設長 高森 等

当附属病院では、1985年よりブローネマルク・インプラントを導入し、各関連講座からの代表者によるインプラント・プロジェクト・チームを結成し、治療に当たってまいりました。1990年11月には当附属病院におけるインプラント義歯が、厚生省により高度先進医療として認可されました。その後、1991年1月に各講座から独立した大学病院としては本邦初のインプラント診療科（現在のインプラント診療センター）が、設立されました。現在、センターは病院の6階にあり、4つの診療室があります。スタッフは、全員他科と併任しており、口腔外科医2名、補綴科医5名、放射線科医2名、麻酔科医2名、歯周病科医1名、非常勤講師2名ならびに専任歯科衛生士5名の合計19名よりなり、治療にはそれぞれの専門分野のスタッフがチームを組んで当たっています。なお、センター長は高森等教授（口腔外科担当）で、認定医が4名、指導医が2名おります。

初診患者は1日平均2名で、これらの患者については、毎週月曜日にスタッフ全員が集まり、1週間分の初診患者について治療方針を協議する検討会を設けています。また同時に、次週行うインプラント手術の検討会も行っています。検討会を設けることにより、担当医による診断ミスの防止や治療内容の均一化が図れると考えています。

現在1日平均2件の手術を行っており、今までに、インプラント治療を施行した患者は、1342名（2006年末まで）になります。施術後は、上部構造装着時、3ヵ月後、6ヵ月後、1年後に



メンテナンスを行い、問題がなければその後年1回のメンテナンスを受けてもらっています。毎月最終金曜日にスタッフ全員が集まり、メンテナンスで得たデータを検討し、問題が認められた患者に対しては速やかに対応するようにしています。現在、センターの一番の大きな問題として、これらメンテナンス患者の増加により、治療中の患者の治療時間の確保が困難となっていることです。

治療以外にインプラント治療の普及のため、卒後研修としてインプラントの講習会を開催してきました。講習会は1988年から開始し、現在まで23回開催し、受講生は約700名に達しています。当初は年2回開催したこともありましたが、現在は毎年3月に開催しております。また、毎年7月下旬に解剖学第一講座、歯科放射線学講座とともに局所解剖の実習を開催しています。さらに、開業医の先生に対する研修制度として臨床見学制度も設けています。

教育面では、平成9年より卒前教育として第6学年時（平成13年からは第5学年時）に12～13回のインプラント学の講義をインプラント診療センターとして行っています。

研究面では、歯科放射線学講座と診断全般について、解剖学第一講座とインプラント手術に関連した局所解剖について、歯科麻酔・全身管理科とインプラント手術時の全身管理について共同研究を行っています。

東京形成歯科研究会

施設長 奥寺 元

平成19年2月4日（日）に東京形成歯科研究会創立25周年記念式が盛大に開催されました。振り返ってみるに、東京形成歯科研究会の創立は25年前の昭和57年、中野のサンプラザで結成式が挙行され、少人数ながら元会長の黒山先生を始め、若い先生方の集まりで、活気に溢れた会でありました。その後、徐々に大きな会となる基礎を築いて来た訳ですが、しかし、東京形成歯科研究会の発展は個性豊かな奥寺会長となって一層、強力となりました。その証は何と申しまでも、ICOI国際的な会長の就任に就任されたこと、日本はおろか、アジアで初めての事で

ありました。実力、個性、努力、社会性、国際性が認められたもので、我々も大変、誇らしく思っております。

今回の25周年記念大会も奥寺先生らしい、楽しい学会でありました。顔の広さも非常に印象深いものを受けました。川添 堯彬理事長、玉置敏夫教授、高橋 常男教授、周 哲男美容外科会長、高見山 大五郎親方等々、大変な顔触れで、話題性においても十二分でした。内容はポスターセッション、シンポジウムは奥寺先生の基調講演、そして教育講演、IMPLANT HEALTH & BEAUTY CONTESTです。このうちで評価も高く、そしてユニークだったのがBEAUTY CONTESTです。演者の先生方へのコメンテーターや患者様から高い評価や感銘の言葉を戴いたことも、現在のインプラント治療の機能、審美面への有効性等、その価値、成果を皆改めて得心し感嘆するものでした。奥寺先生の真骨頂は、やはり全顎的インプラント治療を行った、「ミセスヘルスグランプリ、85歳、青春を謳歌して」講演で、患者様自身が舞台上に登られ、軽いステップを踏まれ、健康で元気な姿を見せられました。この患者さまが奥寺先生のお母さまと分かり、皆さまから微笑みがもれました。

この様に一般の学会とは少し様相が相違していましたが、歯科医と患者さまが直結して交流するという主旨が良く表現されており、好感の持てる25周年でした。今後の学会の方向性に一石を投げる大会でありました。私自身も参加、勉強させて頂きました。

今年だけの大会とする事は勿体なく、毎年の開催にしては如何ですか、世に問うて発展させましょう、楽しみな未来を感じました。

東京形成歯科研究会創立25周年記念式典の懇



親会も様々な演出で大変盛り上がりました。今後の、奥寺先生の健康、活躍、東京形成歯科研究会の発展をお祈りします。

(OZの会 塩路昌吾 記)

ユニバーサルインプラント研究所

施設長 星野清興

ユニバーサルインプラント研究所 UNIVERSAL IMPLANT RESEARCH INSTITUTE (通称UIR) は1973年に東京で発足し歯科インプラントの普及、促進、研究を行っている研究会で、開業している歯科医師(臨床医)をはじめ、学生や勤務医、大学で教えている先生をも含めた先生方で構成された研究グループです。ここでは国内外のインプラントに関する情報収集や研究、そして研修などを行っております。現在会員は125名で過去10年前より認定医研修講座を行っており、4名の指導医、33名の認定医がおります。研修の基礎講座は各大学講師による、学会カリキュラムに沿った内容で行っており臨床実技は指導医を中心としライブオペを含めた実践的指導に力を入れております。UIRグループでは常に、患者さんに対して、最良の医療技術が提供できることをテーマとして取り組んでおります。

最新の研究テーマはCT-CAD/CAM、「X線CTを利用した顎骨再現モデルの製作と再生医療の応用」を基本テーマにしております。生体3次元モデルやシュミレーションオペシステムの完成により、インプラントの術前の設計や植立位置の決定が行えることから、的確な手術が効率よく、しかも安全にできるようになりました。さらに上部構造の設計、製作に最新CAD/CAMテクノロ



ジーを研究，臨床応用することでより精度の高い，審美性を求める医療技術の進歩発展をめざしています。

主な活動

- ・ 専門医研修コースの開催：学会の専門医研修カリキュラムに沿った112単位1年間の研修コースを行っております。
- ・ JSOI 認証医ケースプレゼンテーション受験者の指導，専門医試験受験者の教育研修
- ・ 難症例については少人数制の臨床研修も行っております（マンツーマンの指導体制で，短期集

中型の密度濃い研修を行っています）

- ・ UIR メンバーによる定例会，専門医をめざす会員の症例検討会，内外の専門学会ならびに関連学会発表，論文投稿

主な研究テーマ

- ・ X線CTによる顎骨再現モデル再生医療
 - ・ 3D・CAD・CAM システム
 - ・ インプラントの審美的研究
- 最新医療システム
- ・ 全身麻酔による全身管理

平成 18 年度指導医，認定医合格者および指定施設

指導医

- 安藤 雅康(朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所)
- 杉山 和孝(ユニバーサルインプラント研究所)
- 前田 芳信(大阪大学歯学部)
- 村井 健二(京都インプラント研究所)

- 澤瀬 隆(長崎大学医学部・歯学部附属病院)
- 椎貝 達夫(東京歯科大学歯内療法学講座)
- 塩山 秀哉(日本インプラント臨床研究会)
- 鈴木 郁夫(日本インプラント臨床研究会)
- 武知 正晃(徳島大学病院インプラント診療部門)
- 田中 孝明(日本大学松戸歯学部附属歯科病院インプラント診療科)

認定医

- 荒 昌晴(東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント治療部)
- 飯島 守雄(日本大学松戸歯学部附属病院)
- 池田 昌平(総合インプラント研究センター)
- 井上 一彦(総合インプラント研究センター)
- 植木 普(総合インプラント研究センター)
- 上林 毅(北海道形成歯科研究会)
- 遠藤 高弘(北日本口腔インプラント研究会)
- 太田 幹夫(東京歯科大学歯内療法学講座)
- 岡田 常司(東京医科歯科大学歯学部附属病院インプラント治療部)
- 加賀 賞子(日本インプラント臨床研究会)
- 懸田 明弘(嵌植義歯研究所)
- 片山 明彦(東京歯科大学歯内療法学講座)
- 勝山 英明(鶴見大学歯学部附属病院)
- 加藤 義浩(埼玉インプラント研究会)
- 川崎 文嗣(鶴見大学歯学部附属病院)
- 川原 大(臨床器材研究所)
- 久村 欽弥(ユニバーサルインプラント研究所)
- 笹尾 道昭(社団法人日本歯科先端技術研究所)

- 田中 芳人(京都インプラント研究所)
- 土倉 康(東京歯科大学歯内療法学講座)
- 鳥村 敏明(東京形成歯科研究会)
- 内藤 光俊(ユニバーサルインプラント研究所)
- 難波 勝文(総合インプラント研究センター)
- 長曾 善彦(ユニバーサルインプラント研究所)
- 隼瀬 純次(京都インプラント研究所)
- 原田 庸平(東京形成歯科研究会)
- 福田 敬(新日本臨床歯科インプラント協会)
- 藤田 達夫(埼玉インプラント研究会)
- 藤本 真存(口腔インプラント生涯研修センター)
- 北條 正秋(口腔インプラント生涯研修センター)
- 前田 明浩(九州インプラント研究会)
- 前田 芳信(大阪大学歯学部)
- 松田 成彦(朝日大学歯学部附属病院口腔インプラント科)
- 丸山 利彦(京都インプラント研究所)
- 宮崎 憲雄(京都インプラント研究所)
- 宗像 源博(東京医科歯科大学歯学部附属病院)

インプラント治療部)

八木原淳史(日本インプラント臨床研究会)
矢島 章秀(松本歯科大学病院)
保田 亜起(日本インプラント研究会)
ハツ橋孝彰(東京歯科大学歯内療法学講座)

渡邊 悟朗(鶴見大学歯学部附属病院)

研修施設

秋田大学医学部附属病院・歯科口腔外科
愛知学院大学歯学部附属病院

新入会者紹介

(平成18年11月1日～平成19年5月31日)

油川英馬,	椿田俊雄,	熊谷和人,	伊東和樹,	市川洋一,	大月佳代子,	杉田大三郎,	井笹敬三,
松村英尚,	瀧口太郎,	都筑文明,	梶口 理,	伊藤智美,	富口直樹,	深谷拓勝,	鈴木晶博,
今上英樹,	野村博光,	笹倉裕一,	遠藤之誉,	喜田睦子,	渡辺松芳,	北川直人,	氏家 隆,
野村慶馬,	藤原 周,	杉山耕司,	藤木英生,	勝 喜久,	梅村 匠,	廣澤紀子,	桑原正光,
山田友康,	吉田義弘,	辛嶋 崇,	岩崎ひとみ,	高田橋美幸,	羽鳥仁志,	伊藤 悠,	中田幸雄,
山田光彦,	安田伸一,	西中英伸,	寺内庸泰,	井上 洋,	境 大助,	森田耕造,	達見友啓,
足立成弘,	難波 徹,	相原克偉,	植草 肇,	湊 勇人,	葛山賢司,	平井新栄,	松下みち,
柏村 玲,	飯嶋 亨,	辻野正久,	服部俊彰,	安間宏保,	平川祐子,	佐山治正,	小北一成,
山本倍生,	和田圭之進,	池田邦彦,	原田 薫,	田中謙光,	岸川 裕,	片山雄行,	石川文一,
筒井祐介,	阿久津有美,	森本恭司,	西本桂三,	近重美香,	有馬嗣雄,	野田 亮,	中谷洋司,
稲澤浩晃,	大野久美子,	寺田 肇,	富山雅浩,	西川明日香,	青沼秀明,	門野内 聡,	平木めぐみ,
阿部田暁子,	野上晋之介,	藤樹 亨,	萩野 賢,	鈴木佐栄子,	五十嵐 寛,	中嶋 允,	平尾直美,
谷口伸尚,	高田健治,	長谷川英登,	川名部 謙,	荒井 然,	森下寛史,	増田勝彦,	谷岡款相,
佐野哲也,	狩山昌万,	吉田健吾,	尾島泰公,	野口祐輔,	渡邊 裕,	倉林 亨,	黒瀬洋輔,
渋谷繁男,	田島義久,	植松康明,	花井 徹,	石橋美樹,	木村 誠,	星 知巳,	多田信之,
松末友美子,	梨木賢二,	小杉賢史,	古藤加奈子,	仁木繁憲,	鈴木智雄,	遠藤美香,	蛭田絵美,
冶城文啓,	高橋悦子,	佐藤和紀,	佐藤和哉,	廬 真夕,	國松禎一,	石田憲嗣,	松尾晋吾,
長谷川 章,	廣瀬立剛,	佐藤春香,	大谷俊文,	山下泰寛,	高木紳吾,	田中憲一,	目良尚子,
林 宏徳,	吉川朋宏,	牧浦俊彦,	二宮威重,	渡邊浩章,	若原浩文,	前田 仁,	古市卓也,
中山節子,	宮沢健太郎,	和久雅彦,	佐久間秀人,	モハマドアブダル モミン,	山田敏彦,	菊地康司,	
木村夏樹,	井澤浩文,	市川 淳,	柴田督弘,	中島健太,	河村達也,	倉賀野 徹,	神戸正文,
田中 剛,	年縄壮夫,	小荷田祐介,	濱田裕之,	箕西敦久,	齋藤豪紀,	川島太一,	山村文弘,
有山希味子,	岡田弘二,	鶴岡守人,	松本 達,	松下一徳,	堀永大樹,	西村一行,	伊藤優里,
田中亮三,	島田昌明,	百田義弘,	豊田義彦,	池田善彦,	佐々木研一,	外尾雅男,	卯野亜希,
勝二 巖,	永田俊輔,	山本裕明,	青柳光宏,	安藤正明,	中山幸男,	三浦篤信,	板橋基雅,
高山啓禎,	阿久津正輝,	小坂橋總子,	新田朋弘,	池田淳子,	松尾浩英,	関屋 亘,	田中 学,
富沢一能,	宝崎岳彦,	北條 泰,	西山和範,	勝沼隆之,	久保達也,	上田順宏,	安場正将,
南川剛寛,	納富 幸,	下島 要,	白石千秋,	森本敬太,	岸本 大,	澤野秀義,	笹原大輔,
井波寛子,	麻生高志,	津川偉章,	阿部嘉裕,	高山昌顕,	藪 健一郎,	長谷川博一,	新谷剛史,
佐々木啓行,	濱 秀樹,	後藤方通,	青山康太郎,	長野宏保,	飯島達也,	原田泰光,	西原伸一,
伊藤正紀,	登谷俊朗,	相原一之,	花井淳一郎,	原 精一郎,	熊谷俊也,	中西真大,	山崎賢一,

黒澤 宏, 川本真一郎, 長谷川展之,
 八島建一郎, 成田俊英, 國分善政, 松本康裕,
 河井里佳, 加藤博詞, 田邊順一, 中野敬輔,
 吉田賢二, 若林大輔, 伊藤寛之, 井上富夫,
 藤原 研, 永山猛朗, 松岡政之, 年梅 敦,
 田中正司, 平田睦佳, 浪越建男, 森田康之,
 吉田 健, 菊井謙太郎, 藤井理絵, 本田博之,
 井村雅幸, 佐藤 亮, 橋本秀明, 森 悟,
 平山富興, 神崎理子, 大久保俊祐, 南波香織,
 原口茂樹, 福地綾子, 山根晃一, 黒田賢太郎,
 藤澤秀男, 絵面光江, 南 克浩, 西村 豊,
 朝倉光史, 谷内美文, 石井彰夫, 細田大治,
 東海林 理, 阿部真裕, 河岡卓之, 高橋俊一郎,
 坂本美知子, 矢部普正, 岩島広明, 倉松俊史,
 坪井健一郎, 桜井剛史, 中里龍彦, 西東聖子,
 深井俊一, 松成淳一, 海原真治, 石川智子,
 稲岡紀子, 大沢 大, 三木哲英, 井上一彦,
 金尾将人, 西原一秀, 吉江紀夫, 吉田哲也,
 馬目時宗, 高根正敏, 矢部晃一郎, 今野幸子,
 飯田太一, 渡辺昌明, 高松純一, 高場雅之,
 山田晃久, 今野修行, 中馬 諭, 河合良明,
 山田 純, 丸子健二, 山本秀樹, 吉野木綿,
 高岡周一, 井上 篤, 新井基之, 大谷成起,
 芳賀浩昭, 杉原正明, 成田潔治, 杉森英一郎,
 猪俣謙次, 中村和宏, 上村康雄, 中島 督,
 漆山尚志, 大堀ことは, 坪井明人, 小林邦枝,
 安藤真紀, 西原淳一, 本田英貴, 河田俊嗣,
 有馬達也, 丹根一夫, 牧口哲英, 野間口 朗,
 安楽照男, 高村将光, 田中孝佳, 廣田 誠,
 田中直人, 田原靖章, 東山弥生, 庄司研吾,
 山田千恵, 杉丸成子, 志村公治郎, 柳 献作,
 加来真人, 大島正充, 阿部真人, 本部悠一郎,
 井澤雅博, 又吉誉章, 福留淳一, 馬場準一,
 田村洋一, 三橋憲司, 吉田信介, 海野博俊,
 山添正稔, 酒井原 巖, 井澤篤義, 梅山 望,
 内山公男, 越野敏郎, 藤田悟朗, 満田隆之,
 磯川律子, 佐藤隆保, 石多謙一, 小林充典,
 平冲匡志, 木下浩二, 岩渕博史, 古谷田啓子,
 鎌田研祐, 清野敦子, 浅海利恵子, 櫻井 甫,
 服部寛子, 大野裕之, 児玉秀樹, 眞野壮一郎,
 菊池研太, 佐藤健仁, 大林茂樹, 濱田義三,
 藤田麻木子, 三宅徹哉, 笠原貴仁, 加藤有里,
 鈴木憲久, 渡邊宣之, 照井 純, 松岡俊夫,
 向笠恭章, 馬庭倫人, 法月良江, 森山幸一,
 杉澤 裕, 松尾法子, 三木正秀, 大島正充,
 打矢五月, 米田博紀, 太田 卓, 中崎俊克,
 澤 明男, 田中一茂, 白土 州, 大美賀清光,
 伊藤寛史, 伊藤理妙, 大江丙午, 板谷篤泰,
 白石龍太郎, 芹澤整嗣, 嶽崎晃一, 吉田有智,
 森下泰弘, 前田崇雄, 向井知里, 城所愛美,
 松本直也, 高橋英一, 向坊太郎, 小林功明,
 内海ナナ, 梅村眞理, 庄田隆一郎, 河野麻子,
 横矢隆二, 神谷 恵, 金森敏和, 木村美那,
 戸室政之, 片山 祐, 外畑敦司, 岡田秀一,
 西田尚武, 能崎晋一, 五十嵐安之, 風間大介,
 安田雅章, 河原雅朗, 小出清孝, 坂口 馨,
 河野直生, 渡辺敬三, 吉岡武史, 田岡 雄,
 福岡博史, 寺本祐二, 蔦木洋平, 吉田邦秀,
 多喜豊和, 福井克仁, 山口元嗣, 今井 光,
 新井 裕, 羽生俊絵, 星山 力, 下平克彦,
 小林一成, 中村恵子, 西野雄大, 筒井純也,
 井上洋士, 清遠恵美, 新海 誠, 宮原宇将,
 伊藤 努, 土肥香苗, 今井輝芳, 坂巻由紀子,
 林下志穂子, 小田貴士, 森 亮輔, 前川邦昭,
 下温湯浩一, 大村祐進, 竹下俊史, 川島泰憲,
 篠原俊郎, 小林 平, 若菜則孝, 高井貞浩,
 佐々木信也, 山本良太, 坂口春日, 上村 学,
 柳 文秀, 佐和義夫, 大川内 誠, 中村勇三,
 緒方慶治, 酒井康雄, 片岡 淳, 石黒長一,
 石川喜一, 吉田 稔, 長谷川一彦, 副島 衛,
 窪田浩臣, 福田敏博, 田中宏幸, 五十嵐 靖,
 清水靖志, 三木博之, 高岡一樹, 齋藤英延,
 大谷直樹, 近藤祐介, 有澤正志, 清水純一,
 作田篤代, 辻 展弘, 白石和仁, 河合竜佐,
 岩崎由美, 竹田智郎, 永山友子, 石井正俊,
 今本裕紀, 杉山志保, 中村 亘, 妹尾吉訓,
 松井有恒, 川井 忠, 神田浩之, 谷山隆一郎
 (以上 554 名)

第27回(社)日本口腔インプラント学会 東北・北海道支部総会・学術大会案内

開催日：平成19年11月17日(土)、18日(日)
会 場：山形県歯科医師会館
大会長：足立幸一郎
実行委員長：高木幸人
連絡先：〒990-0031 山形県十日町1-2-30-202 高木歯科医院
電 話：023-625-5825 FAX：023-625-9549 E-mail：info@inplant-yamagata.net
内 容：特別講演は、山形大学医学部附属病院整形外科学准教授の高木理彰先生に“人工股関節周囲微小環境と骨溶解現象(オステオライシス)”の演題でご講演していただきます。特にフィンランドでは歯周病チームと骨・インプラント境界面の生体反応を研究され、免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業や、関節リウマチの早期診断と重症化の防止対策事業など、数多く論文・発表をなさっております。
専門医教育講座では梅原正年先生に“患者QOL 昂揚を目的としたインプラント治療”という演題で講演していただきます。また今回新たに、歯科衛生士セッションとして阿部田暁子先生に、歯科技工士セッションとして北海道岩見沢市の坂本裕先生に講演していただきます。
大会長から：本会は社団法人格の取得に伴い一般市民の信頼性や注目度も高まりインプラント治療の一層の理解と充実を図る目的で、今回のテーマを「インプラントチーム医療の構築を目指して」と題し、常に患者さんを中心に据えたチームシステムにしたいものと考えております。多数の一般口演ならびに参加を願い皆様をお待ちしております。また晩秋の山形をご家族・スタッフの研修旅行を兼ねて自然の恵みとグルメも堪能していただければ幸いです。

第27回(社)日本口腔インプラント学会 中国・四国支部総会・学術大会案内

開催日：平成19年12月1日(土)、2日(日)
会 場：高松市社会福祉総合センター
大会長：長畠駿一郎(香川大学医学部歯科口腔外科学講座)
実行委員長：三宅 実(香川大学医学部歯科口腔外科学講座)
連絡先：〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750-1 香川大学医学部歯科口腔外科学講座
電 話：087-891-2227 FAX：087-891-2228 E-mail：dent@med.kagawa-u.ac.jp
一般講演、教育講演、公開講座、シンポジウム、歯科衛生士部会(教育講座)、歯科技工士部会(教育講座)を予定

第27回(社)日本口腔インプラント学会 関東・甲信越支部総会・学術大会案内

開催日：平成20年2月2日(土)、3日(日)
会 場：都市センターホテル(日本都市センター会館内)
大会長：輿 秀利
実行委員長：梨本正憲
事務局：医療法人社団博雅会布田歯科医院 布田博 〒197-0801 東京都あきる野市菅生116
大会運営本部：(お問合わせはこちらにお願い致します)
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-6-7 虎ノ門2丁目アネックス5F 株式会社日本エンジニア内 担当 松田直樹
電話：03-3519-5188 FAX：03-5510-0883 E-mail：implant@jobing.co.jp

第3世代

インプラントロジ



私たちは
メンテナンスの重要性について
真剣に考えています。

メンテナンスのための必須条件

- ・高度の骨接触率
- ・強固な封鎖性
- ・確実な清掃性
- ・容易なハイジーン
- ・安全な骨再建

患者様の笑顔のために。
先生方の安心のために。

日本から世界へ…
マイティス・アローインプラント

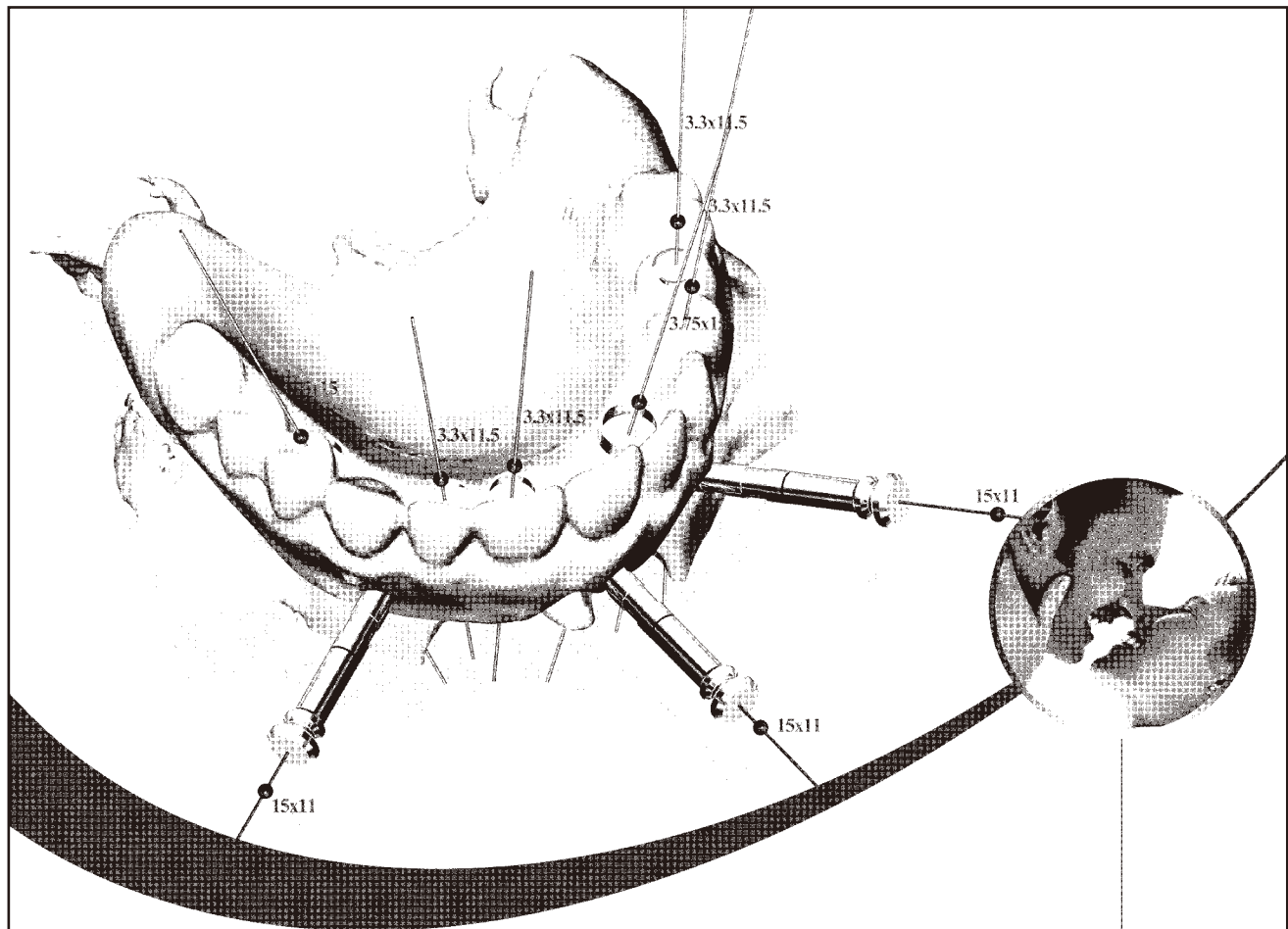
B B C 株式会社 ブレーンベース

〒140-0014
東京都品川区大井1-22-13 米山第2ビル6F
営業時間 月～土 AM 9:30～PM 6:00(日・祝日休業)



にこっ よくつく
FreeDial TEL 0120-25-4929
よくつく みんな
FAX 0120-4929-37

承認番号 21500BZZ00187000



with NobelGuide™ you can plan on

growing your business

ノーベルガイドでビジネスチャンスの拡大と収益性の向上

ノーベルガイドは、治療計画段階からインプラント埋入までの一連の歯科インプラント治療をより安全で正確に行うための画期的な治療方法です。

- 専用ソフトウェアでCTスキャンデータを3Dデータに変換し、シミュレーションによる綿密な治療計画を手術前に立てられます
- シミュレーションに基づいて作成されたサージカルテンプレートを使用することで、より正確なインプラントの埋入が可能になります
- 事前に作製した補綴物を手術時に適用できます
- 患者はインプラントを埋入した日に新しい歯を装着して帰宅できます
- 予知性の高い、迅速な手術が可能です
- フラップレスな術式により、患者の痛み、腫れ、出血などを最小限に抑え、負担を軽減します

ノーベルガイドは、診療時間と患者の治療期間を短縮し、より安全で効率的な臨床をサポートします。

広報委員会からのお知らせ

前年度に引き続き春日井昇平（東京医科歯科大学）が委員長を務めます。現在の広報委員会のメンバーは以下の通りです。

委員長：春日井昇平

副委員長：五十嵐俊男

委員：山内六男，嶋田 淳，十河基文，
内藤宗孝，北川 昇，土屋直行

今後とも広報委員会は、ニュースレターとホームページを通じて会員の皆様に学会の情報を素早く正確に伝達するよう努力致しますので宜しくお願い致します。ご意見，ご要望等ございましたら，以下の連絡先にご連絡ください。
〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45
東京医科歯科大学 インプラント・口腔再生医学
春日井昇平

電話 03-5803-5934

ファックス 03-5803-5934

メールアドレス：kas.mfc@tmd.ac.jp

Happy Smiles & Heartful Communication



3DX FPD - Full Digital System
三次元デジタル時代、はじまる。

3DX MULTI-IMAGE MICRO CT FPD
スリーディーエックス マルチイメージ マイクロCT
新世代のデジタルX線センサー「フラットパネルディテクタ (FPD)」搭載。
少ない線量で高品質な三次元画像を提供します。
インプラント、根尖病巣、顎関節、埋伏歯などの幅広い精査、診断が可能。

- 切替可能な撮像領域 $\phi 40 \times H40\text{mm}$ ・ $\phi 60 \times H60\text{mm}$
- 撮像領域が大きくても高解像度を維持 ボクセルサイズ0.125mm 解像度2.0lp/mm
- 軟組織から硬組織まで描出 広いダイナミックレンジと豊かな階調表現能力
- ワンダービューアーソフト ■ ボリュームレンダリング表示
- 院内ネットワーク対応

販売名 スリーディーエックス マルチイメージ マイクロCT
標準価格 30,000,000円 2006年5月21日現在 消費税別途
医療機器承認番号 21200BZZ00757000

発売 株式会社 **モリタ** 製造販売・製造 株式会社 **モリタ製作所**
www.dental-plaza.com

GC

GENESiO Debut

インターナルフィクスチャー「ジェネシオ®」を加えた
ジーシー インプラントシステム「Re (アル・イー)」。
2つのシステムが臨床の幅を広げます。



GC IMPLANT SYSTEM Re
internal implant GENESiO
external implant SETiO

株式会社 ジーシー
www.gcdental.co.jp/

※掲載は、2007年6月現在のものです。製品の仕様・外観等は、予告なく変更になる場合がございます。

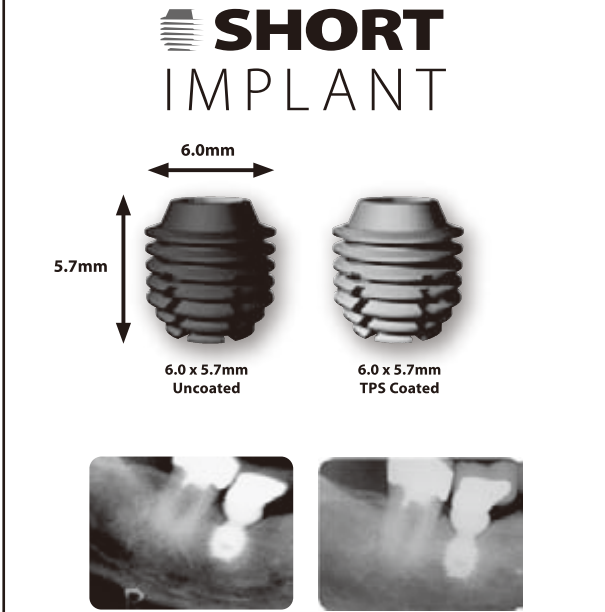
SHORT IMPLANT

6.0mm

5.7mm

6.0 x 5.7mm Uncoated

6.0 x 5.7mm TPS Coated



Bicon 6.0x5.7mm short implant 埋入後2年

同 implant 埋入後7年

bicon
DENTAL IMPLANTS
Sensible Implant Dentistry Since 1985

バイコンジャパン株式会社 フリーダイヤル 0120-8150-62 http://www.bicon.co.jp

目 次

6つのインプラント専門資格がいよいよ同時スタート！	1
新役員紹介	2
平成18年度名誉会員紹介	2, 3
平成18年度表彰者紹介	
学会特別功労賞受賞者	3
学会特別賞受賞者	3
学会特別論文賞受賞者	4
学会優秀論文賞受賞者	4
学会奨励論文賞受賞者	5
優秀研究発表賞受賞者	6
デンツプライ賞受賞者	7
委員会から	
日本補綴歯科学会との共催シンポジウム「インプラントの咬合：わかっていること、いないこと」について	9
学会運営の変更について	10
『インプラント専門歯科衛生士』制度のスタート	10
平成18年度収支決算書について	11
論文種別分類の定義と書式を明確化	12
年次学術大会案内	
第37回(社)日本口腔インプラント学会・学術大会	12
第38回(社)日本口腔インプラント学会・学術大会	13
支部便り	
第26回(社)日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会報告	13
指定研修施設紹介	
朝日大学歯学部附属病院口腔インプラント科	14
日本歯科大学付属病院インプラント診療センター	15
東京形成歯科研究会	15
ユニバーサルインプラント研究所	16
平成18年度指導医、認定医合格者および指定施設	17
新入会者紹介	18, 19
支部学術大会案内	
第28回(社)日本口腔インプラント学会中部支部総会・学術大会	8
第27回(社)日本口腔インプラント学会東北・北海道支部総会・学術大会	20
第27回(社)日本口腔インプラント学会中国・四国支部総会・学術大会	20
第27回(社)日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部総会・学術大会	20
広告	21～24
目次	24



製品の特長

- ・高い精密加工技術を誇るスイスですべての製品を製造
- ・症例やニーズに合わせて1回法と2回法の選択が可能
- ・インターナルHEXを採用し、審美性と安定性を実現
- ・高い初期固定と手術時間の短縮を実現したセルフタッピングスレッド
- ・症例に応じて選択できる多彩なインプラント・補綴パーツをラインナップ

※ご質問・ご不明な点がございましたら、当社及び営業担当までお問い合わせください。

SPI[®] System
Swiss Precision Implant



THOMMEN
Medical

A RELIABLE PARTNER FOR RELIABLE IMPLANTS.

医療機器承認番号 21600BZY00706000 21700BZY00456000

製造販売元 **株式会社 アスバック コーポレーション**
A RELIABLE PARTNER FOR RELIABLE IMPLANTS.

本社 大阪府吹田市江坂町1-23-28(江坂南口ビル) 〒564-0063 TEL:06-6384-6921
東京営業所 東京都台東区上野2-11-15(株式会社モリタ内) 〒110-0005 TEL:03-3834-6165
www.aspac-co.jp

発売元 **株式会社モリタ**

大阪本社 大阪府吹田市重水町3-33-18 〒564-8650 TEL:06-6380-2525
東京本社 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL:03-3834-6161
www.dental-plaza.com